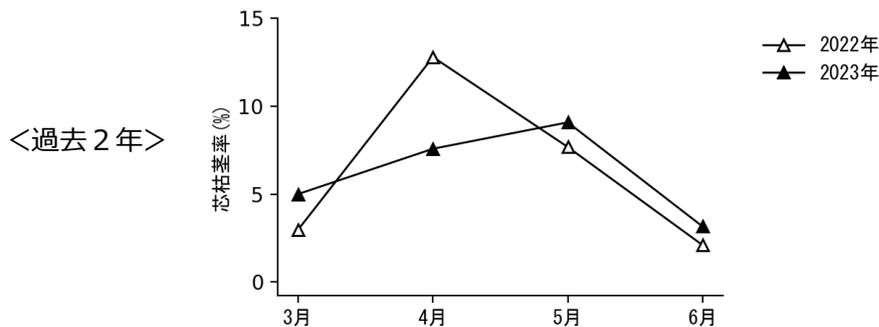
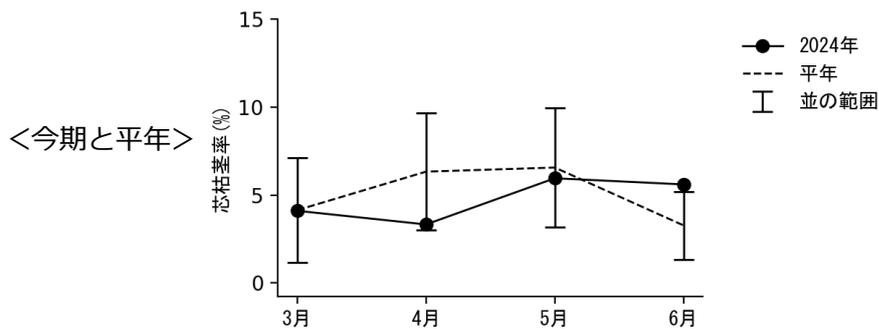


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	6 月からの増減傾向	—	
	7 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

芯枯茎率の推移 (株出し)



・発生ほ場率100% (平年 : 81.3%)

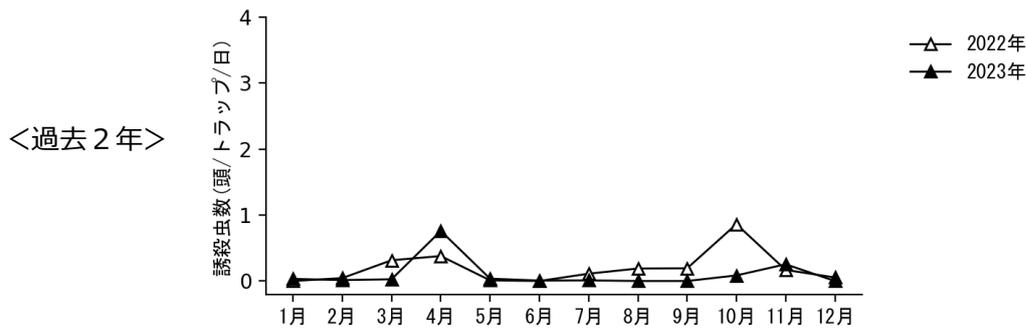
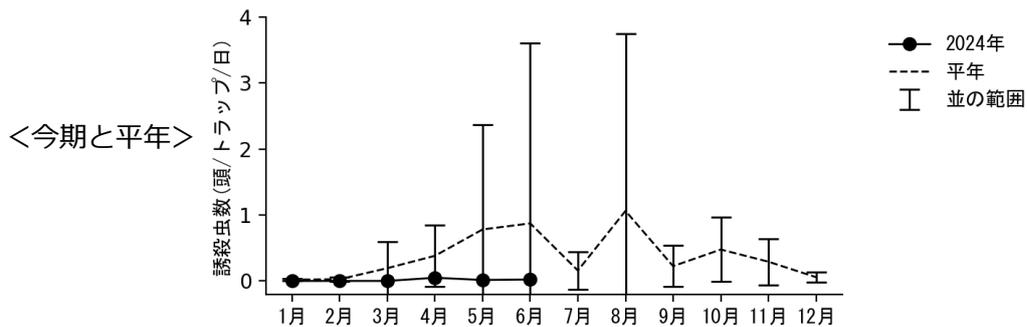
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	6 月からの増減傾向	→	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠			

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

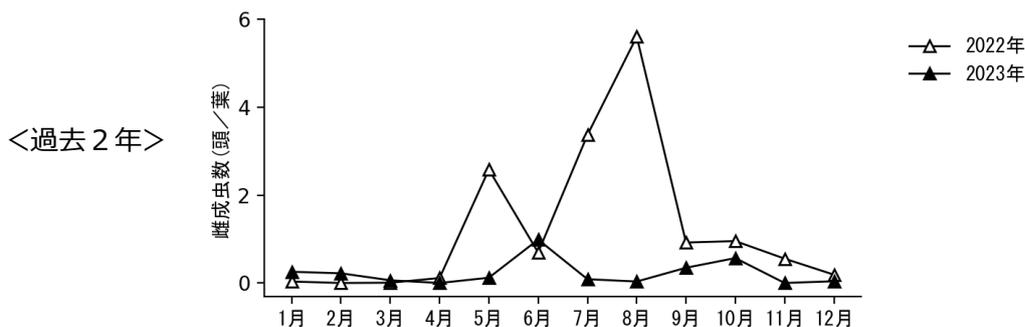
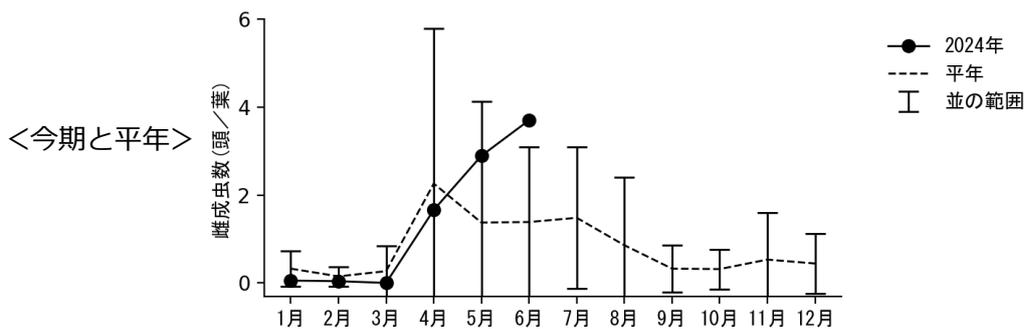


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	6 月からの増減傾向	→		
	7 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率60.0% (平年：54.2%)

防除のポイント

- ・収穫終了後の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

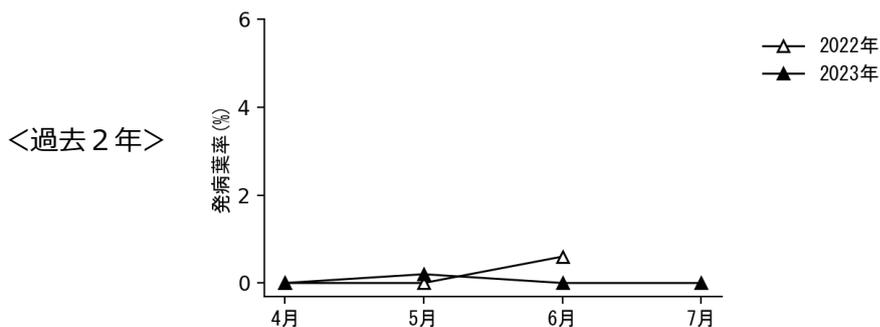
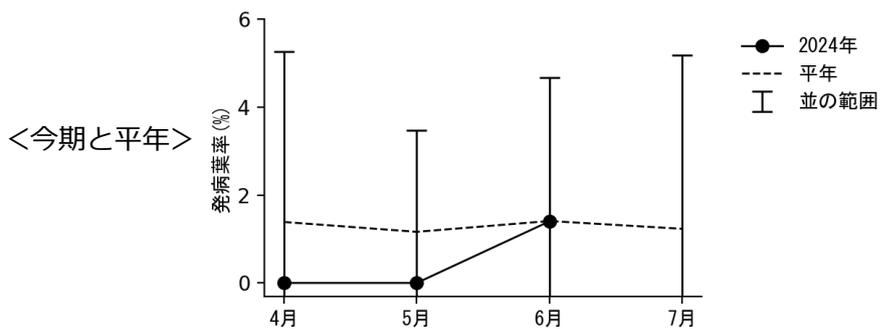


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	6 月からの増減傾向	→	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率20.0% (平年 : 12.2%)

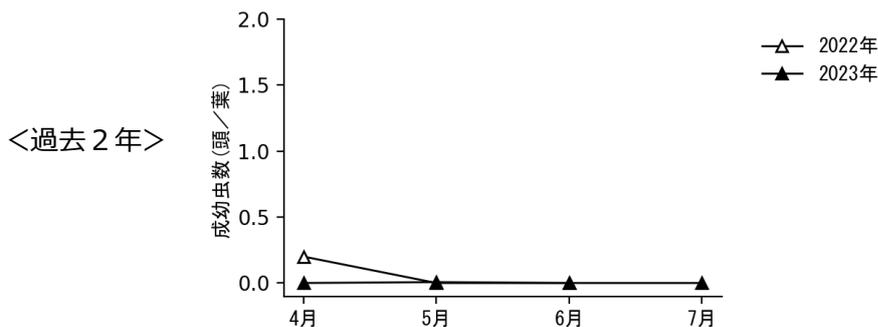
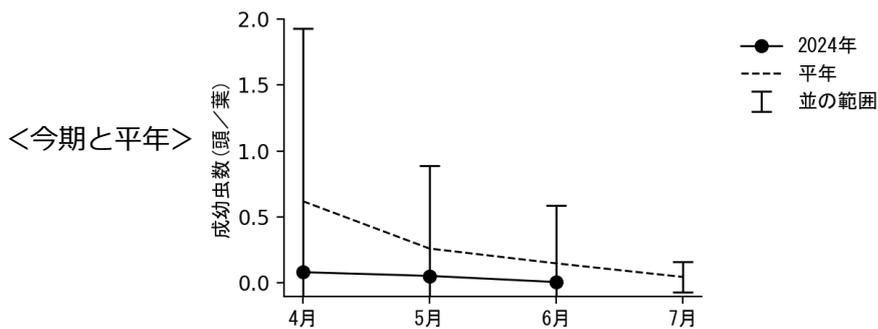
防除のポイント

- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。
- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	② アブラムシ類		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↘	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率20.0% (平年 : 20.4%)

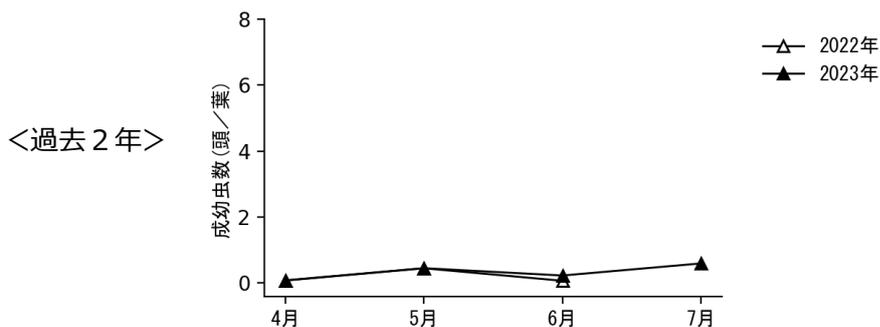
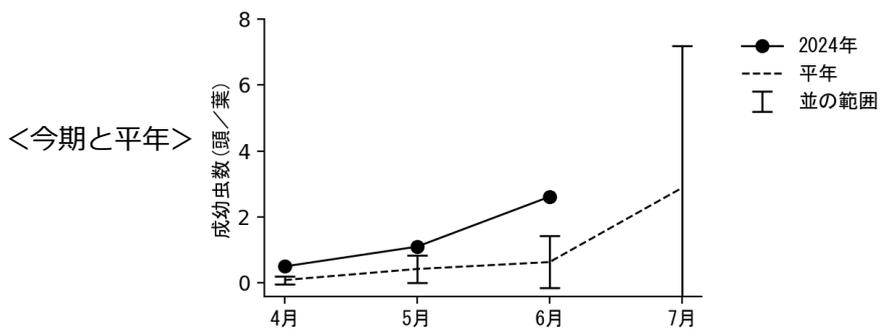
防除のポイント

- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。
- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

作物	オクラ		地域	宮古群島
病害虫名	③ フタテンミドリヒメヨコバイ			 成虫
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	多		
予報	6 月からの増減傾向	↗		
	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成幼虫数の推移

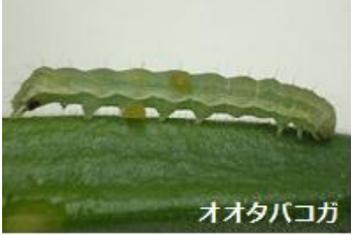


・発生ほ場率100% (平年 : 67.3%)

防除のポイント

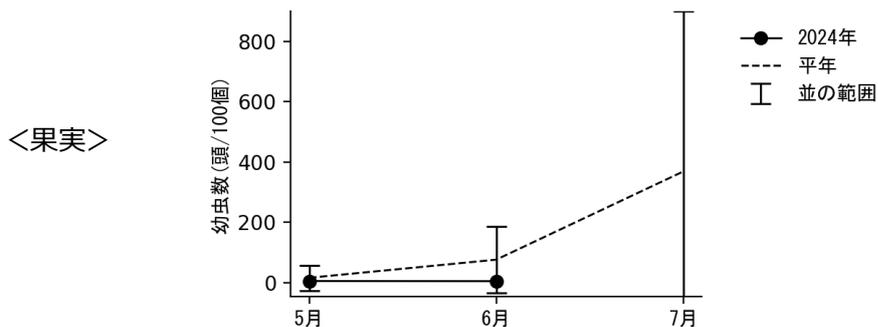
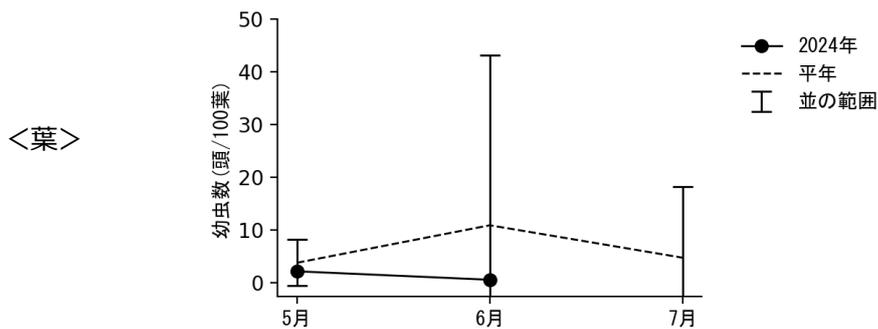
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	⑤ チョウ目幼虫		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↓	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

幼虫数の推移 (今期と平年)



- ・発生種 :
- ・発生ほ場率40.0% (平年 : 30.6%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

